令和6年3月 22 日（（金） 松本糸魚川連絡道路 大町市街地区間 地区説明会 質疑応答要旨
常盤地区（上一、上一住宅、松原団地、泉）

○質問１

今回の資料は発注者側の都合の良い資料なだけ。松糸道路ができれば大町は素通りされストロー現象により空洞化が進む。シャッター街が増えるだけで商売ができなくなる。盛土によって北アルプスの景観が見えなくなり田園風景も壊され沿線では土地が暴落する。緊急車両の為というが、国は 2030 年代には空飛ぶ車が実用化を進めると公表しており、道路の必要性はないのは明白。郷土愛があるのなら、自然豊かな大町の田園風景を残すべきである。白馬に抜けるためだけの道路で大町には全くメリットがない道路である。

●回答１（大町建設事務所）

松糸道路は大町市だけのための道路ではなく、大北地域、長野県、国土全体の均衡ある発展の上でも必要な道路である。広域道路は地域や都市の一体化において重要な役割を担っており、県、国土の一体化が図られ社会全体豊かさの増進につながるもの。道路だけですべてが解決するものではないが、都市間の交流が生まれ、企業の取引も拡大されることになる。通勤も容易になり色々な地域から職場に来ることができる。色々な都市に住んでいる人との交流も図られる。商圏も拡大し競争原理が働き地域一体として活性化が期待できる。
また、道路整備により街中に入ってくる用事のない大型車が松糸に転嫁されることにより、地域内の大型車が減り、街中を安全に安心して歩ける交通安全の面でも効果がある。自転車の通行環境においてもメリットのある道路であると考えている。

○質問２

オリンピック道路の沿線に住んでおり、大型車の頻繁な通行により毎日ヒヤヒヤしながら生活している。現在のオリンピック道路はパンク状態ではないかと思う。大型トレーラーが曲がれない。出入りの度に危険な思いをしている。他の地域では色々な道路ができているが大町は昭和 40 年代の国道の拡幅以降進んでいない。出来るだけ早く整備をしてほしい。

●回答２（大町建設事務所）

松糸道路整備によりオリンピック道路の交通量は減って、出入りがし易くなるものと考えられる。現時点で完成がいつかは示すことはできないが、地域の皆様と丁寧に意見交換しながら、なるべく早く進めてまいりたい。

○質問３

この道路は必要。大町市だけの問題ではない。少子高齢化が進む中で一分一秒を争う時に松本など高次救急医療への搬送においてこの道路は必要である。ＯＬ道路の沿線で農業をしているが毎日危険を感じている。そもそも圃場整備により整備された道路。道路幅が狭いうえクランクもある。東京や大阪に行く際には誰もが高速道路を利用するはず。その地域の

方は、土地の提供をしてきていることを考えてほしい。
●回答３（大町建設事務所）
　市街地内のルートを検討する上で、住宅や農地への影響を全て避けることはできない。貴重な土地を提供いただく必要がある。できるだけ地域にとって良い道路、遠くから大町に来てもらえるような道路をしっかりと設計していきたい。

○質問４
　盛土に対して 2 点。能登半島地震では何日間も通行できないこと状況が発生した。長野県には多くの活断層がある。盛土構造では不安がある。2 点目として何を大町に残していくのか。大町の自然を求めて移住者も多くいる。アルプスと田園風景は子孫に残していく大事な財産であると考えている。この景色は心のよりどころでもある。盛土により景観が破壊されることに根本的に反対である。A，B，Cのどのルートでも大町市の自然を破壊する。また、ルート案中止の反対署名運動が活発化している。大町市以外の方への反響も大きく、友人からも署名したいという声も多くある。
●回答４（大町建設事務所）
　阪神淡路大震災をはじめ多くの災害を経験する中で、耐震基準が見直されてきた。盛土について、締固め基準変更後に作られたものについては能登地震でも非常に軽微な損傷で済んでいる。橋梁も阪神淡路大震災後に変わった基準で作られたものは軽微な損傷となっている。能登半島では 2007 年にも大きな地震を受けており、盛土も大きな被害を受けているが、新たな基準で災害復旧した道路では今回の地震ではほとんど壊れていない報告を受けている。これからつくる松糸道路についても大規模な地震が発生しても壊滅的な被害にはならないと考えている。
　大町市の北アルプスと田園夕景はダイナミックな自然で素晴らしいものと理解している。一方、地域にとって必要な道路であることから、できるだけ農地へ影響のないルートを選定した。盛土の高さについて、常盤、上一の周辺では高瀬川の氾濫想定区域により下げることは難しいが、それ以外の地域においては高さを抑えた工夫をすることができる。
署名については活動していることを承知している。内容を確認させていただきたい。

○質問５
　盛土の弱点は原風景を壊すこと。盛土に工夫をしてもアルプスの景観を阻害するもの。大町の風景は日本にとって貴重な財産。上一付近はＪＲを高架するため大きな影響がある。また、大町は素通りされることが危惧される。
　東洋紡跡地の大型商業地クレスポが整備される際に、H27,6 の大町市議会で中心市街地への影響について大きなダメージになるのではと質問があった。大町市からは中心市街地に隣接する場所に設置されるものであり、中心市街地と密接に連携する活性化する可能性がある。物事を積極的前向きに考えていけばピンチではなくチャンスと捉えることができ

ると回答。第 3 次中心市街地活性化基本計画の見直しがされており、市街地に看板を設置する街中誘導事業を進めるなどしているようだが、現在の中心市街地はシャッター街となっているではないか。活性化の青写真が見えてこない。

●回答５（大町市）

H26～27 において第４次策定に向け第３次中心市街地活性化基本計画を見直ししている。中心市街地が南側へ移動してしまうのではとの懸念から議会での答弁である。このまま良いというのではなく現在第 5 次中心市街地活性化基本計画の策定に向けて動き出しているところ。街中の再生推進事業として「シャッターオープン事業」などの官民連携事業の施策を展開してきている。また、大町 100 人衆会議では各プレーヤーが大町への疑問に対して解決する施策を考えていくなど話し合いの場をつくりながら進めているところ。令和 7 年度の第５次策定に向け再生ビジョンの検討を進めている。

〇質問６

クレスポの進出は中心市街地の活性化のチャンスにならなかったという理解で良いか。

●回答６（大町市）

チャンスに変えていく施策を展開してきており、今後第 4 次の見直しの中で総括してまいりたい。

〇質問７

賛成、反対どちらでもないが、説明会では事業者側のメリットばかり話しているような気がする。計画する側から言えるデメリットを教えてほしい。また、市の道路維持費用について現在のものと松糸整備後どうなるのか教えてほしい。

道路の維持費用が減るかもしれないが大町の人口も減少している。今後人口が減少することから地方都市を維持していくためにはインフラ量を増やしてはいけないのが原則。現在は 270 億円の整備費用にとなっているが物価高騰により現時点でも 300 億以上は必要になっているはず。大阪万博でも予算が倍増している。大規模な排水処理施設も必要。整備する頃には 600 億となり 6 分短縮に 600 億、1 分 100 億円の投資をしてよいのか。

●回答７-1（大町建設事務所）

比較評価の中でメリット、デメリットを示しているところ。Ｃルートのデメリットは住宅地への影響が一番大きいこと、農地への影響は他に比べて少ないが不整形農地が生まれることなど土地利用の面でのデメリットがあると考えている。

●回答７-2（大町市）

市では現在 860 ㎞の市道を管理している。年間の維持費は約 2 億円。その中でＯＬ道路の舗装に年間約 3000 万の予算を費やし 10 年～15 年サイクルで修繕している。松糸道路整備によりＯＬ道路の交通量が減ることで舗装の痛みが減少するものと期待される。修繕サイクルが減れば、その結果、舗装への維持費が減ることが期待される。

○質問８

資料 P21 の写真の目の前に住んでいる。毎日綺麗な景色をみてご飯を食べていた日々が、道路がくれば見えなくなるのかと思うと悲しい気持ちになる。そのような住民もいることを受け止めてほしい。

●回答８（大町建設事務所）

今まで住んでいたところに遮るものができる悲しい気持ちになるは当然かと思う。今後、設計を進めていく中で、少しでも宅地から離すことや高さを抑える計画を検討するなど、住民の気持ちに寄り添いながら事業を進めていきたい。

○質問９

移住してきた時にはルートが決まっており、道路整備することが一択として進められている。原油高騰やトラック運転手の勤務時間の制限など物流のあり方が変わってくるものと考えられる。今後、空飛ぶバイクが 8000 円で購入できる情報もある。空飛ぶ車の技術も進んでいる。道路整備一択ではなく、過疎地域へのドローン支援やドクターヘリの発着所の整備などに予算を充てるなど選択肢を増やすべきと考える。移住してきた一番の理由は、大町は東京にはない自然環境があること。東日本大震災を経験しており、安心して安全な食べ物をつくれる環境を未来の子供たちに残すべきである。首都高速も多くのメンテナンス費用が必要な状況。270 億円では足りないと言われ、多くの借金を子育て世代に残すことになる。工事中の工事車両に対する不安な気持ちがある。

●回答９（大町建設事務所）

空飛ぶ車については、来年の大阪万博でも実用化の情報もある。様々な移動手段があるが空飛ぶ車を考慮して道路計画をしたものではない。空飛ぶ車は自由に空も飛べ、便利なものであるが、これだけあれば何でも解決できるものではないと思う。走行距離の問題や現在のドクターヘリでは天候の問題、夜間の走行ができないなど課題があると聞いている。色々な手段があり、それぞれが補いあうことは良いこと。物流については、2024 年問題としてドライバーの運転時間が短くなるが、市街地だけでは 6 分短縮となっているが、一人当たり６分かもしれないが、何万台、何千万台が通過することで多くの時間短縮効果が期待できる。2024 年問題を解決するためにも、一つの手段としてとらえてほしい。工事車両により二酸化炭素の発生や騒音や振動への不安については、地域の皆様に迷惑のかからないよう、工事の始まる前にはしっかりと説明してまいりたい。技術の進歩もあり、二酸化炭素が少ない機械の開発や機械の自動化などにも今後期待したい。

○質問 10

説明はしてくれることは理解するが、具体的に住民への不安や恐怖感などへの対応などは何かしてくれるのか。

●回答 10（大町建設事務所）
工事に起因して振動により家にひびが入った場合などは補償の対象となる場合がある。

○質問 11
国交省、経済産業省は緊急車両を空飛ぶ車に移していく内容を公表している。年表のスケジュールも出ている。2030 年以降はそのような世の中にしていき地方でのインフラ整備は不要であると言っている。国と県ではダブルスタンダードではないか。未来の技術革新を見込んで税金を使うべきである。
●回答 11（大町建設事務所）
ロードマップについては確認したい。昨年、空飛ぶ車について広域消防にヒアリングを行った。その際には、未知のものでまだ実用化は考えていないとの回答。空飛ぶ車はこれからのものであって、できれば便利なものであるが、それだけで全てを解決できるものではない。空の大渋滞も考えられる。未来のことまでは予測できず、肯定も否定もしないが、現時点では一つの手段として道路整備は必要なものと考えている。

○質問 12
道路できるのは 10 年後。道路一択ですべてのことが解決できる話しが進んでいるように思われるが、10 年の間にどれだけの技術革新が進むのかも検討してほしい。270 億円の予算があるのであれば現在の道路を修繕したり、危険な箇所をなおすなど、色々な施策も検討してほしい。
●回答 12（大町建設事務所）
色々な交通手段があることは承知している。道路だけですべてが解決できるものとは考えていない。